

## 「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第 97 回

『「旺盛な創造力と実行力」 ～ 「すべて真実なこと」 ～ 』

2022年2月19日、筆者が理事を務める東京女子大学から、『東京女子大学同窓会の100年』が送られてきた(画像)。2016年に『100年史編集委員会』が発足されたようである。東京女子大学創立は1918年、第一回卒業式は1922年である。新渡戸稲造(1862-1933)初代学長の入学式の式辞と卒業式の「ジュネーブ湖畔の国際連盟事務局」よりの手紙が紹介されている(下記)。

「在学中、皆さんが常に心掛けられた精神は学校の徽章に表した通り犠牲と奉仕との二つであります。此の主義精神はたゞに学校生活に限らず全生涯を通じて守るべき主義であります。——如何なる地位如何なる職業にあつても拳々服膺すべき主義であることは今更述べる迄ありません。私は永く異郷に留つて各国の人々と交り各種の民族に接してみるに——百人百色の説を抱く人々につきあつて益々犠牲と奉仕の念なくば人としての業務を全うし得ないこと、否一步進めて申せば此の二つの精神があつてこそはじめて二足の動物が人間となることを感じます。——有能高邁なる諸先生について四年間の鍛錬を遂げられた事を御祝ひいたさざるを得ません。——願はくは校室にて学ばれ或は黙想の時に或は友達と談話の折り、或は読書の際自ら深く発見された理想に忠実にして各自の使命をも全うせられむことを偏へに希望いたしまふ。』

とある。

「関西での新渡戸稲造講演会」では、『先生は、——冗談ばかりでなかなか話の本筋な入らない。——「講演はするが、どんな話をしたらよいか題はみんな決めて知らせてくれ給え」とおしゃつた。それはいつものことのようなのである。その場で題を見ながら話を始めるのが常であつた。』と記述されている。筆者は、講演を依頼された時、この新渡戸イズムを真似ている。「すべて真実なこと」(ピリピへの手紙第4章8節)という句を標語とし、東京女子大学は、『犠牲と奉仕』(Service and Sacrifice)の二つのSを十字に組み合わせたものを校章とされている。東京女子大学の英語の呼称は、“Tokyo Woman’s Christian

University”である。“Women’s”が、使われていない。これは、『東京女子大学が「個人ひとりひとりを大切にする」ことを教育の大きな目的としていることによるものである』とのことである。今回の同窓会の皆様の『旺盛な創造力と実行力』には、大いに感動した。

